

～ボンネットバスが醸した盛岡の街と人、移動と交流～

平成29年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：移動・交流体系の確立を通じた都市モデル形成と検証—盛岡市河南地区を対象に—

研究代表者：総合政策学部 教授 倉原宗孝

課題提案者：盛岡劇場界隈まちづくり推進会 会長・佐々木栄一、同 大石仁雄

株式会社 恵PCM 代表取締役 細川智徳

技術キーワード：交通体系、移動・交流、バス

▼研究の概要（背景・目標）

本研究では「人の移動・交流を促進する仕組み」をテーマに掲げ、コミュニティバスなど公共交通に着目した実験・検証を通じ盛岡らしい交流体系を描き出すことを目指した。実証実験では、岩手県北バス所有の「ボンネットバス」の運行を軸に盛岡中心市街地循環の特別バス運行による検証を行った。その際これまで行ってきた実験結果などとの比較検証も行った。実施日は、29年10月14日と15日の2日。それぞれ盛岡市内を5循環するという運行内容とした。結果を既存実験における参加者数と比較し、また有料運行という点も考慮しながら、今回の実験では相当の効果が創出されたとみることができる。また、沿道の様子などから乗車実績以上に人の交流を促す効果がみられた。

▼運行実験の実績と評価

バス参加者数は、10/14～118名、10/15～191名、合計309名。同時期の既往実績として27年10月の無料運行(2日間)における実績319名、28年10月の無料運行(1日間)での実績が64名であり、これとの比較および今回は有料運行ということを考慮すると、相当の効果が創出されたとみる。また、沿道の観衆への効果も相当に見受けられるなど、乗車実績以上に人の交流を促すという意味では相当の効果があつたのも大きい。今回は地域イベントの開催日に合わせ、イベントの「はしご」を行いながら、「一日乗り放題」という設定で人の回遊度を高めるといった効果を期待した。実際に、2日合計をみるとチケット1枚に対して平均1.91回乗車実績となっており、バス運行の沿道地域に対しては、相応の還元が出来たものと認識する。

▼個性的な移動媒体（ボンネットバス）の効果

今回は昭和43年に製造され岩手県内では2台しか現存しない「ボンネットバス」の運行を行ったことが、バスを眺めたい、バスの写真を撮りたい、バスと一緒に記念写真を撮りたいといったバス乗車しない人々に対しても大きな効果をもたらした。ボンネットバスの様な個性有る移動媒体自体が盛岡の街並みや市民・観光客に与える好影響が見られたことは大きい。こうした効果について、さらに実践的な活動と普及に向かうことも今回見出された可能性でありその展開を課題としたい。



ボンネットバスで巡る盛岡駅・材木町と歴史文化ゾーン「河南」

【期 日】平成29年10月14日(土)・15日(日)

【旅行代金】各日 大人300円 小人200円
(小人：4～9歳以下、小学生、入札者、入札者(18歳未満)・高齢者(75歳以上))

【発着地】盛岡駅前バスセンター5分と盛岡市内各所【乗車時間】

【定 員】各日150名(乗車時間20分以内)【食事なし】

※ボンネットバスは一日に10台運行するが、当日の運行状況は随時変更される。当日の運行状況は、盛岡駅前バスセンターの案内板で確認してください。

【沿道ポイント】
盛岡駅前バスセンター
石丸呉服店
くるとエリア
歴史文化ゾーン「河南」
盛岡市役所
盛岡市立図書館
盛岡市立博物館
盛岡市立美術館
盛岡市立体育館
盛岡市立市民会館
盛岡市立市民センター
盛岡市立市民ホール
盛岡市立市民ホール2
盛岡市立市民ホール3
盛岡市立市民ホール4
盛岡市立市民ホール5
盛岡市立市民ホール6
盛岡市立市民ホール7
盛岡市立市民ホール8
盛岡市立市民ホール9
盛岡市立市民ホール10
盛岡市立市民ホール11
盛岡市立市民ホール12
盛岡市立市民ホール13
盛岡市立市民ホール14
盛岡市立市民ホール15
盛岡市立市民ホール16
盛岡市立市民ホール17
盛岡市立市民ホール18
盛岡市立市民ホール19
盛岡市立市民ホール20



▼連携・観光・学習等の多面的効果

本実験は、盛岡河南地区のほか、一部の路線は盛岡駅方面、材木町方面も周遊するコースを組んだ。これにより、企画運営において同地区の商店街関係者とも連携を図りながら、コース設定および事前告知等を行うことにもつながり、自然に盛岡中心市街地の主要な地域活性化団体との協調連携関係の強化にもつながった。地域の観光活性化に詳しいガイドが添乗し、沿道の名所やその由来等について、適時に解説を加えながら、街を知る、魅力を発見する、という効果も確認できた。実験の企画運営を行った地元住民にとって新たな発見や認識の深まりがあり、他地域からの来街者にとってみれば一層大きかったものと考えられる。

▼謝辞：実験の企画・運営・検証においては、保和衛氏(当時、岩手県秘書広報室長)、盛岡市経済企画課および景観政策課、盛岡商工会議所、盛岡着町商店街振興組合、盛岡まち並み塾(鉤屋町)、盛岡劇場界隈まちづくり推進会、盛岡駅前商店街振興組合、盛岡材木町商店街振興組合、トラベル・リンク株式会社、その他多くの関係各所にご協力いただいた。深く感謝します。

